



2022年7月28日

各 位

会 社 名 新 京 成 電 鉄 株 式 会 社  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 眞 下 幸 人  
(コード番号 9014 東証スタンダード)  
問 合 せ 先 経 営 企 画 部 長 鈴 木 克 明  
(TEL 047-389-9917)

## 2022 年度の取り組みについて

新京成グループにおける 2022 年度の取り組みについて、お知らせいたします。

### 《策定にあたって》

新京成グループでは 2010 年度に長期経営計画（2010 年度から 2021 年度）をスタートし、ニーズを先取りしたサービス展開により、住んでいたい・住んでみたい魅力的な沿線づくりを行うとともに、安全・安心・快適を旨とした事業運営を通じ、お客さまや社会からより信頼される企業となることを目指して取り組んでまいりました。今後の新京成グループを取り巻く事業環境は、中長期的には沿線の少子高齢化や生産年齢人口の減少による影響が見込まれます。また、新型コロナウイルス感染症の影響による事業環境の変化により、足元では、特に運輸事業において収益が減少する等の影響を受けております。このような状況においては、社会構造の転換に応じた変化を求められると予想され、この変化の波に応じて収益構造を見直し、更に発展させることにより新京成グループ全体として大きく飛躍させるための計画を着実に実行する必要があります。

2022 年度においても、これまでを踏まえた一層の事業基盤の強化や新たな事業の創出、沿線地域との共生や支援による地域活性化を図るとともに地域ブランド力を向上させることで、新京成グループ全体としての魅力を向上させ、お客さまや社会からより信頼される企業を目指してまいります。

## 1. 取り組みの概要

### ①移動手段としての既存事業の回復

⇒ 適正な輸送力への転換、運賃改定の検討、お客様需要の創出などによる既存事業の回復

### ②既存事業の基盤強化、周辺事業の創出

⇒ 運輸・不動産・コンビニ業の基盤強化とともに既存事業をサポートする事業の新たな創出

### ③沿線地域との共生、積極的な支援による地域活性化

⇒グループ連携による地域マネジメントの展開により、沿線外からの移動の創出を図るとともに地域ブランド力を向上

### ④事業の標準化、システムによる事業効率化

⇒ 既存事業の構造的な見直しやシステム導入・活用による事業効率化

## 2. セグメント別重点施策

### <運輸業>

- ・安全管理体制の維持、向上
- ・鉄道収益の確保（運賃改定の検討、広告営業強化）
- ・バリアフリー設備等整備（プラットフォーム内方線新設、ホーム嵩上げ）
- ・サービスの品質向上（列車内カメラ新設）
- ・自然災害リスク対応（駅舎建替）
- ・地域活性化に向けた取組（沿線への誘致、社会貢献事業の推進）
- ・電力使用量の削減（車両新造）
- ・既存バス路線の見直しによる収益回復・収支改善
- ・新京成ブランド化の推進（バス車体カラー等統一デザイン）
- ・人材力の活用と労働生産性の向上、業務の効率化

### <不動産業>

- ・新規賃貸物件開発の推進（連立高架下）
- ・新津田沼地区開発の推進

### <コンビニ業>

- ・地域商品の販売（新京成ブランド商品展開）
- ・店舗運営体制の強化（管理者層への積極的登用）

### 3. 参考資料

別冊「2022年度の取り組み」

以 上

# 2022年度の取り組み



新京成電鉄株式会社  
(9014)

1. 前長期経営計画の振り返り
2. 2022年度の取り組み

# 前長期経営計画期間の取り組み

◆2010年度よりスタートした前長期経営計画期間の取り組み



連続立体交差事業



80000形デビュー



エキタきたなら開業



セブンイレブン

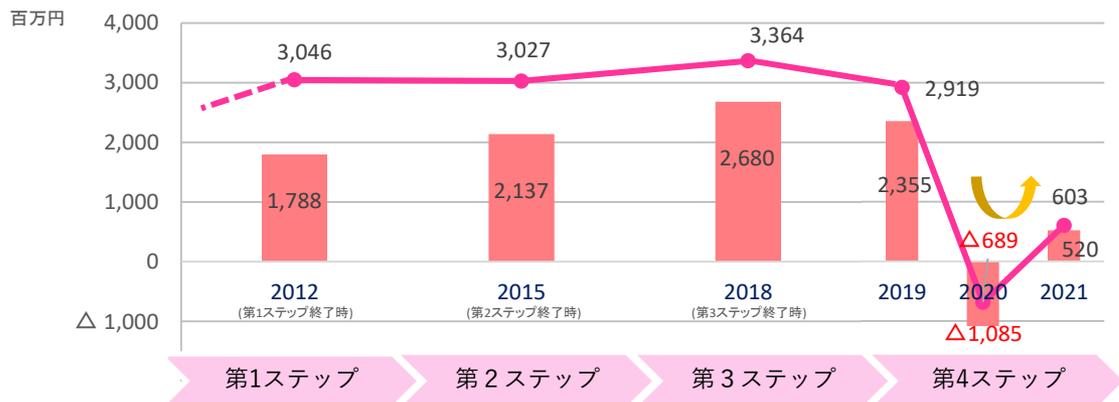
新京成ST店展開



高速バス運行開始

# 前長期経営計画を経ての新京成グループを取り巻く環境

## ◆ 2010年度～2021年度損益（連結）



- ・ 第1ステップから第3ステップまでは順調に推移
- ・ 第4ステップ期間中に発生した新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた
- ・ 最終年度の2021年度は持ち直したが影響が残る

## ◆ 経営環境分析

- ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大が各事業、特に運輸事業に甚大な影響
- ・ ウィズコロナ時代による社会構造の転換、事業構造の変化。特にデジタルとアナログの棲み分けが加速度的に推進

新型コロナウイルス感染症の影響により、社会構造の転換が図られるとともに各産業においても変化を求められると予測される。その変化の波に応じて収益構造を見直し、更に発展させることにより新京成グループ全体として大きく飛躍させるため、2022年度の計画策定を行った。

1. 前長期経営計画の振り返り
2. 2022年度の取り組み

# 2022年度の取り組み

生活基盤の一翼としての運輸事業を回復させるとともに、一層の事業基盤の強化や新たな事業の創出、沿線地域との共生や支援による地域活性化を図り地域ブランド力を向上させることで、新京成グループ全体としての魅力を向上させ、お客さまや社会からより信頼される企業を目指す。

◆新型コロナウイルス感染症の影響が一定程度残る中、コロナ前の水準に近づけていく

## ① 移動手段としての既存事業の回復

⇒適正な輸送力への転換、運賃改定の検討、お客様需要の創出などによる既存事業の回復

## ② 既存事業の基盤強化、周辺事業の創出

⇒運輸・不動産・コンビニ業の基盤強化とともに既存事業をサポートする事業の新たな創出

## ③ 沿線地域との共生、積極的な支援による地域活性化

⇒グループ連携による地域マネジメントの展開により、沿線外からの移動の創出を図るとともに地域ブランド力を向上

## ④ 事業の標準化、システムによる事業効率化

⇒既存事業の構造的な見直しやシステム導入・活用による事業効率化

# ① 移動手段としての既存事業の回復

適正な輸送力への転換、運賃改定の検討、お客様需要の創出などにより既存事業の回復を図ります。



○鉄道運賃改定の検討  
○普通回数乗車券の発売終了、特定運賃の見直し



○既存バス路線の点検  
ダイヤ改正、路線網検討



○アフターコロナでの  
インバウンド施策検討

沿線農園と連携した旅客誘致



○鉄道利用促進企画  
ふなっしー降誕10周年イベント

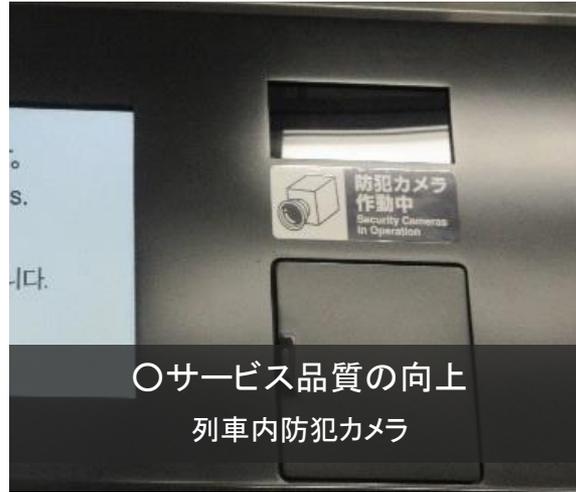
©ふなっしー



○広告営業強化  
SK-Vision更新

## ② 既存事業の基盤強化、周辺事業の創出

運輸・不動産・コンビニ業の基盤強化とともに既存事業をサポートする事業の新たな創出に取り組みます。



### ③ 沿線地域との共生、積極的な支援による地域活性化

グループ連携による地域マネジメントの展開により、沿線外からの移動の創出を図るとともに地域ブランド力向上を推進します。



○地域活性化に向けた  
取り組み

子どもたちの夢を乗せた新京成ドリームトレイン



○新京成グループと  
地域連携強化

地域イベント・お祭りへの出展・出演協力



○新京成沿線地域の  
認知度向上

当社施設によるロケーションサービス



○新京成ブランドイメージ戦略  
コーポレートカラーを活用したバス統一デザイン 地域産品による新京成ブランド商品の展開

## ④ 事業の標準化、システムによる事業効率化

既存事業の構造的な見直しやシステム導入・活用による事業効率化を図ります。



# サステナビリティの取り組み

お客さま・社会から信用される新京成を持続可能とするため、SDGsへの取り組みを推進していきます。

新京成グループの取り組み	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○フルSiC適用VVVF装置導入による電力量の削減（80000形車両新造）</li> <li>○駅照明・電車内LED化</li> <li>○駅舎耐震化</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域活性化イベント</li> <li>○バリアフリー化設備等整備事業への対応</li> <li>○連続立体交差事業の推進</li> <li>○賃貸物件開発の推進（連立高架下、八千代吉橋土地、新津田沼地区）</li> <li>○地域製品の販売（沿線農園等との連携）</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全に関する内部監査の実施</li> <li>○カムバック制度導入</li> <li>○内部統制評価の実施</li> </ul>

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



## < 注意事項 >

本資料に記載されている情報のうち、過去の歴史的事実以外のものは将来の計画であり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいたものとなっております。実際には様々な要因により計画が変更となる場合があることをご了承ください。